

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は明るく素直であり、友達とも仲良く協力して活動したり、決められたことに真面目に取り組んだりすることができる。縦割り活動などでは、上級生が下級生の面倒をよくみており、そのことが次の学年に引き継がれている様子も見受けられる。また、児童会が中心になってあいさつの取り組みを続けていることで、学校や地域でも自然にあいさつを交わす様子が見られるようになってきた。

学習については、よく取り組み丁寧に作業したり、誠実に活動したりして学ぶ様子が見られる。自力解決やペア学習を通して、互いの考えを交流したり学習意欲を高めたりすることも見られるようになってきた。しかし、指示された課題などには一生懸命取り組むが、自分の考えを自分の言葉で表現する力が弱いと感じる。友だちの考えを聞くことはできるが、「なぜそう思ったのか」理由をつけて説明したり、友だちの発表を受けて質問したり、内容について意見・感想を述べて評価し合ったりすることが不得意である。また、昨年度のQ-U検査とNRT検査のクロス集計では、授業の中で、二次支援、三次支援が必要とされる児童が、各クラスに少なからずいることも明らかになっている。そのような児童が、学習をより分かったり、できるようになったりすることを今年度も大切にしていきたい。そして、今まで本校の取り組みで培ってきた児童の学習意欲と、本校の課題となっている表現する力を伸ばすことを毎日の授業に取り入れることによって、本校児童の学習の定着をさらに図りたい。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～ 算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫 ～

3. 主題設定の理由

本校では、平成27年度から算数科の授業の構造化に着目し研究を進めてきた。昨年度は、各学年の児童の課題となる領域に対応し、学習内容の定着を図るために、「スモールステップの導入」「授業での児童の理解度の把握」「ノート指導」のいくつかを意識し学習計画を作っていくこと、また、どのように「自力解決」を行う児童の様子を見取り、「学び合い」に生かすと学習の深い理解につながっていくのかを考え、研究を行ってきた。研究を重ねるにつれ、授業の具体的な場面を元にしたたり、児童の活動を想定したり、自身の経験に基づいたりした意見交換が活発に行われるようになった。2学期末には、児童の学習意欲、学習の到達度については、全国的な基準を超え、年度末の学校生活アンケートでは、子どもたちの学習意欲に対する肯定的な回答が90%以上になっていた。この部分をさらに向上させていく、もしくは維持していくことに努めたい。

そこで今年度は、今まで積み上げてきた実践を生かし、構造化を意識した算数科の授業づくりをさらにもう一歩進めたい。昨年度までの研究の継続を基本とするが、今年度は、「指導上のポイント」の「学び合い」における、学び合いを深める手立てと教師の見取りに視点を当てて考えていきたい。算数科の授業では、何を学ぶのかが一目でわかる学習課題を提示すること、また、全体での比較検討の場面では、考え方の共通点、相違点について考えさせたり、既習事項を用いて説明させたりすることが重要視されている。また、児童の学び合いを深めるためには、教師側で児童の考えを把握しておくこと、児童の考えや間違いを予想しておくことが必要である。そのために、児童が興味関心を持てるような学習課題を提示することや、児童の学び合いが深まっているか、実態把握の方法や評価の方法の研究を進めていきたい。深い学び合いの中で生まれた新しい疑問や興味が次の学習へと結びつく学びの連続性につながる。そうすることによって、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」をさらにめざしていきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

○算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動の工夫について（理論研究・実践・検証）

①よりよい学級集団づくり ・ Q-Uの分析と結果を生かした取り組み

②学習の見通しを持たせるための「学習課題」の的確な提示の仕方

③学び合いを深めるための手立て（本年度の研究の重点）

④思考を深めるためのノート指導と振り返り

○言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有

○児童の実態把握（NRT検査、Q-U）とK13簡易法を用いたQ-Uでの学級づくり

○授業案の作成・検討及び授業実践

(2) 研究の方法

①講師を招いての学習会 ②授業研究会（2回） ③一人一実践授業の提供

(3) 検証方法

①Q-Uや標準化されたテスト結果をもとにした数値面での評価

②授業実践での児童の様子、児童のノート等の記述

5. 年間校内研修計画

研究主任 小林 千恵美

実施月日	研修内容（領域）		担当・学年	T-C類	
4	1 1	第1回	研究の方向性について	研究主任	
	2 5	第2回	研究の概要について 研究の組織の決定	研究主任	
5	1 6	第3回	今年度の研究について 指導案の形式について	研究主任	
6	6	第4回	NRT検査結果分析 Q-U事例検討会 アタックシートの作成	各学年	
	2 0	第5回	Q-U事例作成シートをもとにした対応策の報告（全体）	研究主任	
7	6	第6回	学習会	研究主任	○
8	2 1	第7回	教育課程説明会の環流報告会 学習会	教科主任・研究主任	○
9	5	第8回	学力把握調査の分析結果について 指導案づくり	3・5年担任	
1 0	3	第9回	ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
	1 0	第10回	ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
	2 4	第11回	授業案検討（2年）	2年担任	
1 1	3 1	第12回	授業案検討（5年）	5年担任	
	8	第13回	研究授業・研究会（2年）	2年担任	○
	1 3	第14回	研究授業・研究会（5年）	5年担任	○
1 2	1 3	第15回	ブロック研究（K13法での分析）	ブロック長	
1	1 5	第16回	ブロック研究のまとめ研究紀要作成に向けて	研究主任	
	3 0	第17回	研究の成果と課題について	研究主任	
2	2 0	第18回	来年度の研究の方向性について	研究主任	
	2 7	第19回	研究紀要原稿作成	各担当	
3	6	第20回	研究紀要作成	研究主任	

※研究テーマに沿って全員が授業実践を行い、参観、交流することにより、研究を深める。